

平戸市総合戦略 個別施策の進捗状況（令和5年度実施）

1. 基本的事項	
基本目標	4. 定住・移住の促進 ～まちをつくるプロジェクト～
目標を達成するための方策	ア) 移住の受入推進
	イ) 魅力あるまちづくり

2. 数値目標								
数値目標	単位	基準値	R元	R2	R3	R4	R5	目標値
社会増減数	人/年	△ 223	△ 209	△ 193	△ 152	△ 131	△ 182	△ 163
市外からの移住世帯数	世帯/年	63	68	40	54	53	55	50

3. KPI（重要業績評価指標）								
KPI（重要業績評価指標）	単位	基準値	R元	R2	R3	R4	R5	目標値
空き家バンク登録数	件	99	113	128	140	152	173	160
移住相談件数	件/年	132	188	194	146	175	249	150
まちづくり運営協議会に対する支援回数	回/団体	25	27	16	13	56	55	28
これからも平戸市に住み続けたいと思う人の割合（市民アンケート）	%	47.2	47.2	55.4	49.0	50.9	—	60.0

4. 進捗状況の分析
<p>「市外からの移住世帯数」については、令和3・4年度同様に移住者が増加し目標値を達成した。</p> <p>人口ビジョンに大きな影響を与える社会増減数については、転入者数の増加が見られたもののそれを上回って転出者数も増加しており、転出超過が依然として続いている状況にある。</p> <p>「市外からの移住世帯数」は例年並みではあるが、「空き家バンク登録数」及びオンラインを含めた「移住相談件数」は、コロナ禍前を上回るほど増加しており、大きく目標値を達成している。都市部から地方への移住の関心が高いことから、2040年の社会増減均衡に向け、今後も継続的に移住希望者へのきめ細やかなサポートを行うとともに、市内高校や企業等と連携し、地域や地場企業に対する生徒の理解を深め、若年層の地元定着に向けて注力していく必要がある。</p>

5. 今後の方針
<p>市内全域に設置したまちづくり運営協議会を主体とした、持続可能な集落形成を推進し、各分野における地域の課題解決に向けた取組みを進め、ずっと住みたいまちづくりを目指していく。</p> <p>定住・移住の推進については、年々高まる都市部から地方への移住志向を踏まえ、移住者や企業のニーズを把握し、居住環境や地域生活環境の向上・雇用機会の確保を推進していく。</p> <p>また、市民自らが地元の魅力ある地域資源を知り、広く情報発信することが重要であるため、今後もシンビックプライドの醸成に向けた取組みを行う。</p>

1. 各方策の実施状況	
基本目標	4. 定住・移住の促進 ～まちをつくるプロジェクト～
方策名	ア) 移住の受入推進
方策の概要	Uターン・Iターン希望者等に、移住先として平戸市を選んでもらえるよう、受け入れ体制の整備や様々な支援策の充実を図ります。
	空き家バンク制度の周知を図ることにより、登録件数を増やし住まい選びについてU Iターナーの選択肢が広がるよう取り組みます。
	平戸市への定住・移住に関する情報発信を行うほか、移住相談体制の充実を図ります。
	全国主要都市で開催されている移住相談会に積極的に参加し、移住者の誘致に取り組みます。

2. 実施した主な事業一覧					
No.	事業名	所管課	事業開始年度	所管課評価	ページ
1	移住定住環境整備事業	企画課	平成27年度	継続	62
2	定住促進対策事業	企画課	平成18年度	継続	63

事業評価シート

事業名	移住定住環境整備事業						担当課	企画課		
予算科目	2款	1項	11目	総合計画施策体系	4	1	1	1	実施年度	平成27年度～

事業費（千円）	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度予算
事業費	47,423	33,075	44,209	43,282	49,749	54,300
国県支出金			750	2,317	2,852	5,906
地方債						
その他	43,884	29,143	39,124	37,137	46,897	48,394
一般財源	3,539	3,932	4,335	3,828		

事業の目的及び内容（PLAN）

【事業目的】

本市に移住・定住しようとする者を対象に支援を行い、人口減少の抑制を図ることを目的とする。

【事業内容】

移住定住環境整備事業補助金として、転入者及び市内在住者の住宅取得、中古住宅の改修及び移住費用に対する支援を行う。

事業の実施状況（DO）

1. 移住定住環境整備事業補助金

新規転入者への支援：77件 36,915千円
 市内在住者への支援：15件 6,900千円 合計：92件 43,815千円

事業実施による成果（CHECK）

補助金制度の持続的な取組みと推進により、UIターン者数をコロナ禍前の水準に近づけることができた。令和5年度のUIターン者数は前年度より減少したが、市内の住宅を取得した者への補助金交付実績は9,343千円増加し、前年度比130%となった。

本事業の数値的成果	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	年度/積上
① UIターン者の人数	人	118	86	112	112	103	年度
② 空き家バンク物件登録	件	14	15	12	12	21	年度

事業の改善（ACTION）

事業実施に係る課題及び改善点	<p>本事業については、補助事業の内容を見直しながら対応している。制度活用を通じて一定の成果を得ており、人口減少抑制には貢献しているものの、社会増減実績から見ると依然として厳しい状況である。</p> <p>令和4年度から、「親子でスマイル住宅支援事業」や「結婚新生活支援事業」の取組みを始め、令和5年度の申込件数は、親子でスマイル住宅支援事業実績は0件から2件、結婚新生活支援事業実績は13件から22件と増加しており、さらに周知を図ることで本市への移住定住につなげていく。</p>						
今後の方針	G	A拡大 B縮小 C統合 D廃止・休止 E事業完了 F改善・見直し G継続					

事業評価シート

事業名	定住促進対策事業							担当課	企画課	
予算科目	2 款	1 項	11 目	総合計画施策体系	4	1	1	1	実施年度	平成18年度 ~

事業費（千円）	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度予算
事業費	1,677	1,523	1,674	1,654	7,257	6,952
国県支出金	361	294	340	449	463	447
地方債						
その他					1,527	16
一般財源	1,316	1,229	1,334	1,205	5,267	6,489

事業の目的及び内容（PLAN）

<p>【事業目的】 UIターン者に対する移住・定住の促進を図り、本市の少子高齢化及び人口減少の抑制を目的とする。 また、移住希望者と空き家とのマッチングを図るため、空き家バンク制度への登録推進を行うとともに、移住希望者に平戸での生活を体験できる「ひらど暮らし体験家屋（お試し住宅）」の提供を行う。</p> <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住相談窓口の設置 ・県と連携した移住相談会の実施 ・市ホームページ等による定住関連情報の発信

事業の実施状況（DO）

<p>1. 移住相談件数（訪問・電話・メール・オンライン）：249件 オンラインによる相談会：2回 1人、対面による相談会：4回 30人</p> <p>2. 空き家バンク制度 物件登録：21件（累計：173件）、交渉成立数：5件（累計：103件）</p> <p>3. ひらど暮らし体験家屋（お試し住宅） 薄香物件：4件・13人・50日利用 木引田町物件：3件・7人・74日利用</p>
--

事業実施による成果（CHECK）

<p>新型コロナウイルスの5類感染症移行により行動規制がなくなったこともあり、相談件数が増加した。 県移住サポートセンター主催の移住相談会、市農業振興課と連携した就農・移住相談会など対面での相談受付により、相談内容に応じて細やかな情報提供を行うことができた。 また、ひらど暮らし体験家屋については、利用件数7件のうち令和5年度中に本市に移住したのは1件であった。</p>

本事業の数値的成果	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	年度/積上
① UIターン者の人数	人	118	86	112	112	103	年度
② 移住相談件数	件	188	194	146	175	249	年度
③ ひらど暮らし体験家屋利用者の移住実績	人	5	4	10	6	1	年度

事業の改善（ACTION）

<p>事業実施に係る課題及び改善点</p>	<p>対面に加え、オンラインでの移住相談会に今後も参加するとともに、県が進める移住施策のデジタル化に参画し、不特定多数の移住希望者に対しスムーズに情報が届くよう、ホームページ等の情報発信の強化や内容を充実することで業務効率化につなげる。 また、西九州させば広域都市圏において移住者・関係人口の増加を目指すため、SNSや雑誌等を活用した都心部への情報発信面を連携して行っていく。</p>
今後の方針	G A拡大 B縮小 C統合 D廃止・休止 E事業完了 F改善・見直し G継続

1. 各方策の実施状況	
基本目標	4. 定住・移住の促進 ～まちをつくるプロジェクト～
方策名	イ) 魅力あるまちづくり
方策の概要	行政と地域が連携して、様々な地域課題の解決に向けた取組みを協働して行うとともに、持続可能な集落形成に向けた仕組みづくりを行います。
	地域資源を知る機会を増やし郷土愛を育むことにより、若者の定住やUターンを促します。また、市民活動の活性化による交流人口の増加を図ることにより、活気に溢れたまちづくりを行います。
	市内の高等学校や地域、地場企業が連携した「ふるさと教育」や「キャリア教育」を通じて、地域や地場企業に対する生徒の理解と愛着を深め、地域を担う多様な人材の育成に取り組めます。
	若い世代からの健康意識の高揚を図り、各種健（検）診の受診率向上及び食育等の取組みによる生涯を通じた健康づくりを推進します。
	地域医療を担う人材の確保に取り組むとともに、関係医療機関の連携による救急医療体制の確保を図り、市民が安全で安心して暮らせるよう安定的かつ持続可能な医療提供体制の構築に取り組めます。
	健康づくりや介護予防の推進を図り、元気な高齢者の増加に取り組めます。また、高齢者が、可能な限り住み慣れた地域で自分らしく生活することができるように、地域包括ケアシステムの構築を目指します。
	市外の人との交流促進に関する事業を行い、結婚対策に関する取組みを推進します。
	平戸市の豊かな自然環境の保全に関する取組みを充実します。また、自然環境の保全に関する住民の意識の向上に努めます。
	多様な交通手段の確保を行い、日常生活について誰もが利便性を感じるまちづくりを行います。
	豊かな自然や歴史文化遺産、伝統文化等を大切にす郷土愛を育むため、平戸学を推進します。
シティプロモーションの推進により、市民と行政、民間が一体となって平戸市の地域資源を市内外に発信することで、シビックプライドの醸成と「平戸ファン」のさらなる獲得を目指します。	
人口減少をはじめとする地域課題を解決するため、ICT、IoT等の未来技術の活用を検討・推進します。	

2. 実施した主な事業一覧					
No.	事業名	所管課	事業開始年度	所管課評価	ページ
1	コミュニティ推進事業	企画課	平成18年度	継続	66
2	平戸学推進事業	文化交流課	令和3年度	継続	67
3	国民文化祭開催事業	文化交流課	令和4年度	継続	68

事業評価シート

事業名	コミュニティ推進事業						担当課	企画課		
予算科目	2 款	1 項	11 目	総合計画施策体系	0	1	2	1	実施年度	平成18年度 ~

事業費（千円）	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度予算
事業費	151,611	163,333	173,948	177,015	169,790	183,558
国県支出金						
地方債	57,500	69,900	86,600	97,100	93,100	81,300
その他	534	580	586	617	693	278
一般財源	93,577	92,853	86,762	79,298	75,997	101,980

事業の目的及び内容（PLAN）

【事業目的】

平戸市総合計画の共通プロジェクトである「きずなをつなぐプロジェクト（協働、地域コミュニティ、シビックプライド）」を推進するため、地域住民が一体となり市民自らが考え実践し、地域課題の解決に取り組む「新しいコミュニティ」の構築及び「まちづくり運営協議会」の運営支援を目的とする。

【事業内容】

- ・まちづくり運営協議会への集落支援員及び総合相談員の配置
- ・コミュニティ推進モデル地域交付金（まちづくり交付金）の交付
- ・まちづくり運営協議会の事務局運営や事業計画立案にかかる指導助言

事業の実施状況（DO）

1. まちづくり運営協議会への集落支援員及び総合相談員の配置、総合相談員による指導助言
14地区に対し16人の集落支援員を配置した。
総合相談員6人（平戸中部地区、平戸南部地区、田平地区、生月地区、大島地区、度島地区）により対応した。
2. コミュニティ推進モデル地域交付金（まちづくり交付金）の交付
14地区に対し126,975千円のコミュニティ推進モデル地域交付金を交付した。
3. まちづくり運営協議会の事務局運営や事業計画立案にかかる指導助言
集落支援員研修会（3回）と事務局職員研修会（1回）を開催したほか、随時質問等への対応を行った。

事業実施による成果（CHECK）

各まちづくり運営協議会は、コミュニティ推進モデル地域交付金を財源に、まちづくり計画に沿って地域課題の解決や地域コミュニティの活性化に関する事業を実施した。取り組む事業を皆で話し合っって実行していく中で、協働のまちづくりの意識が根付いてきた。

事業の改善（ACTION）

事業実施に係る課題及び改善点	人口減少時代を踏まえ、各まちづくり運営協議会においてより効果的な交付金事業が企画・実施できるよう、人材の育成や後継者の発掘などに力を入れ、持続可能な集落のあり方を検討していく。					
今後の方針	G	A 拡大 B 縮小 C 統合 D 廃止・休止 E 事業完了 F 改善・見直し G 継続				

事業評価シート

事業名	平戸学推進事業							担当課	文化交流課	
予算科目	10 款	5 項	5 目	総合計画施策体系	5	2	1	1	実施年度	令和3年度～

事業費（千円）	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度予算
事業費			1,497	4,804	2,942	4,307
国県支出金						
地方債						
その他			1,290	4,647	2,381	3,723
一般財源			207	157	561	584

事業の目的及び内容（PLAN）

<p>【事業目的】 平戸学講座や平戸紀要により市民が平戸の歴史・文化を理解し、郷土を愛する心を育む学習機会を提供するとともに、平戸学教育用教材動画やデジタルコンテンツなどで市民に広く情報発信することを通して、豊かな自然や歴史文化遺産、伝統文化に対する郷土愛を育む。</p> <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平戸学講座の開催 ・平戸学周知のためのチラシ作成 ・平戸の地域資源を紹介する映像作成 ・平戸学ホームページに新たなコンテンツを追加 ・SNSを活用した情報発信

事業の実施状況（DO）

<ol style="list-style-type: none"> 1. 本市の歴史や文化、産業、自然などに関心を高め、理解を深めるため、平戸学講座の開催（4回・52人）し普及啓発を図った。 2. 市内の歴史や地域資源の公開、周知するため、平戸学のチラシを20,000部作成し、公共施設及び各観光施設、各地区まちづくり運営協議会へ配布した。 3. 平戸の地域資源を紹介する映像をドローンと360°カメラを用いて7本制作した。 4. 「平戸市地域資源データベース 平戸学」のサイトに平戸市街地と春日集落の古地図を活用した新規コンテンツを作成し、公開した。 5. 平戸学のInstagram等に90回投稿し、情報発信を行った。

事業実施による成果（CHECK）

<p>平戸学講座の開催により、平戸の歴史や文化を学習する機会を提供し、市民の郷土愛を醸成することができた。</p> <p>また、360°カメラで撮影した映像や古地図を活用したコンテンツを公開することで、平戸の豊かな自然や歴史文化遺産の新たな魅力や価値を多くの人に発信をすることができた。</p>

本事業の数値的成果	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	年度/積上
① 平戸学講座の開催数	回			5	5	4	年度
② 平戸学講座の参加人数	人			54	65	52	年度

事業の改善（ACTION）

事業実施に係る課題及び改善点	平戸学講座や平戸学のSNSを通して平戸の歴史や文化の魅力を発信しているものの、その周知・広報が不十分だったため、より効果的な周知方法を模索し、情報を発信していく必要がある。						
今後の方針	G	A 拡大 B 縮小 C 統合 D 廃止・休止 E 事業完了 F 改善・見直し G 継続					

事業評価シート

事業名	国民文化祭開催事業							担当課	文化交流課	
予算科目	10 款	5 項	6 目	総合計画施策体系	5	2	2	2	実施年度	令和4年度～

事業費（千円）	令和元年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度予算
事業費				2,046	1,274	4,551
国県支出金				493	750	750
地方債						
その他				1,058		
一般財源				495	524	3,801

事業の目的及び内容（PLAN）

<p>【事業目的】 音楽をベースとした事業を実施し、文化芸術事業による地域活性化を図るとともに、令和7年度に開催される第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭の開催に向け、市実行委員会を立ち上げ、県実行委員会等各関係機関と連携し、各種事業の円滑な運営を図る。</p> <p>【事業内容】 ・平戸市の地域資源を活用したコンサートの開催 ・第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭平戸市実行委員会の設立および事前準備着手</p>
--

事業の実施状況（DO）

<p>1. 平戸の地域資源を活用したコンサートの開催 カトリック上神崎教会で長崎OMURA室内合奏団によるコンサートを開催した。 平戸オランダ商館でアン・サリーによるLIVEコンサートを開催した。</p> <p>2. 第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭平戸市実行委員会の設立等 令和5年11月27日 第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭平戸市実行委員会設立総会及び第1回総会開催 第1回企画会議及び第1回いけばな部会の開催、周知広報活動等の実施</p>

事業実施による成果（CHECK）

<p>1. 平戸の地域資源を活用したコンサートの開催 平戸の地域資源でプロの音楽を鑑賞することで、プロの音楽に直接触れる機会と平戸の文化や地域資源の魅力について改めて認識していただく機会を創出できた。また、コンサートには幅広い世代の来場があり、市外、県外からの来場者もあったことから、関係人口の拡大と交流促進にもつなげることができた。</p> <p>2. 第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭平戸市実行委員会の設立等 令和7年度の開催に向け、必要な準備を進めることができた。</p>							
本事業の数値的成果	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	年度/積上
① コンサートの開催数	回				2	2	年度
② コンサートの入場者数	人				464	226	年度
③ 平戸市実行委員会等の開催	回					3	年度

事業の改善（ACTION）

事業実施に係る課題及び改善点	第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭の普及啓発を図るため、本市で開催予定の全国大会である「いけばな」の体験教室の実施をはじめ、スクールコンサートの実施など、各文化協会や小中学校、関係機関と連携し、事業を一層推進する必要がある。							
今後の方針	G	A 拡大	B 縮小	C 統合	D 廃止・休止	E 事業完了	F 改善・見直し	G 継続